

富士紀行（94） 届け山嶺に、熱と意気！（須走総合グラウンド）

（H13/8/28 記）

須走に秋風がたち始めた。ススキの穂が白く伸びはじめつつある。登山のピークも過ぎ、心なき登山者・観光客に汚された登山道のゴミを拾うボランティア活動が行われた。須走登山道をはじめとする富士宮・御殿場口の登山道の一斉清掃が、去る8月19日に行われた。

須走口では、43団体、500人余が参加し、不燃・可燃ゴミ2400kgを回収したという。この富士山一斉清掃は、昭和54年に始まり、今回で22回目を迎えた。（日刊静岡 H13/8/21） この清掃作業に隊友会御殿場支部が参加していることを付記しておく。

富士学校の正門前に須走総合グラウンドがある。合宿の生徒や学生であろうか、ボールを追いかける若者らしい大きな掛け声が聞こえる。サッカー場が2面とれる程の広さである。夏の須走は避暑地であり、学生達の合宿には最適である。

この須走総合グラウンドは、富士学校・富士駐屯地隊員の心身の鍛練並びに隊員と地域住民との交流の場を提供する目的で、小山町と富士学校後援会が土地を提供し、昭和34年7月開設されたものである。

約13,000平方メートルの敷地内には、夜間照明灯（平成6年6月建設）8基付きのソフトボール場4面、2面のテニスコート、射距離28メートル（15間）、5的の弓道場が一棟、畳と板の間の柔道と剣道等の訓練が出来る武道場が設けられている。

テニスコートと弓道場は、富士学校開設40周年特別記念事業としてとして実施された。弓道場の利用者は、少ない。知る限りでは、当駐屯地の某技官が時折訓練しているようだ。須走住民には利用者がいない。

小生が若かりし頃にはテニスコート付近にはプールがあった（確認したところでは、昭和47年7月竣工、50メートル、7コースの日本水泳連盟公認プール、工事費は約1200万円）けれども、維持管理の問題もあり、平成6年に取り壊している。今は、プール開設を記念した石碑が建っているのみである。

この須走総合グラウンドの創設に当たっては、初代富士学校後援会長岡野豪夫氏（現会長の御尊祖父）の甚大な御支援があり、翁の功績を称えて総合グラウンド脇に銅像、横には宮崎舜一第3代学校長の揮毫になる「富士総合運動場建設記念碑」が建立されている。

この総合グラウンドは先ず富士学校次いで小山町民及び後援会員、次いで一般利用者という優先順位で使用出来ることとされている。一般の方には所定の極めて廉価な維持費を寄付して貰うことによって利用可能であり、6日前までに須走支所に設けられている委員会事務所に申し込むことになっている。最も、実際はそれぞれの宿泊旅館等が代行しているようだ。

因みに今年度の利用状況は高校5校、社会人や小学生のクラブが利用しており、延べ使用人・日は16,000余りである。種目としては野球やサッカーが圧倒的だ。このグラウンドは、体育の錬成及び向上のために使用することを本則としているので、所謂イベントには基本的には使用が許可されない。

富士学校もこのグラウンドをよく利用している。最近では厚生活動の一環で実施している春季ソフトボール大会を課業外に行っているほか、教導団が、退職予定任期制隊員に実施している基本教練検定（後述）やその為の各部隊の訓練等、駐屯地のサッカー等の各クラブ活動の練習や地域の青少年サッカーチームの子供達による教導団長杯サッカー大会等が目立っている。

＊ 就職援護基本教練検定

退職を予定する隊員に対して、当該隊員が在隊間に修得した小部隊指揮能力の総合的力を判定して、その練度を認定し、以て就職の為に有利な付加価値を付与しようとする認定制度であり、平成12年度から開始して、現在までに174名が「GS」認定証を受章している。GS即ち、good solidier である。富士教導団独自の制度である。



総合グラウンド